

移住のすすめ  
Case 1  
大谷 幸司さん



## 交流拠点 KAMOGO

KAMOGO は単なるカフェではない。地元農家や自治会と一緒に運営する交流拠点だ。建物内では卓球やカローリングができる。ときには体操教室が開かれることもあり、地元の方々の元気づくりにも一役買っており、地元の人々と地域外からカフェを訪れるの人々との交流の場となっている。

また KAMOGO は、みかん栽培が盛んな地域にある。栽培の繁忙期には、全国各地から「援農者」が働きに来るが、KAMOGO の収益の一部は、援農者が暮らすシェアハウスのための費用として使われており、KAMOGO の運営を通じて、ミカン農家の多い地元の支援も行っている。

まさに、人の流れが「まちおこし」に繋がると考える大谷さんの思いを形にしたのが KAMOGO である。



2階ではカローリングや卓球ができる。

## 人と人の交差点を創りたい

カフェ「KAMOGO (海南市下津町)」を運営している大谷夫妻。県内外のイベントにも積極的に出店し、地元のメディアにもたびたび取り上げられている。一度言葉を交わすと、その柔らかな人柄に惹きつけられてしまう。このカフェを訪れる人は、ただ自慢の生絞りジュースやドーナツを求めて来るだけではない。大谷夫妻に会いに来るのだ。

大谷さんのお店には、「人と人の交差点を創りたい」という大谷さんの思いを知っているかのように、地元の人やカフェ好きな人、クリエイティブな人など、様々な人が集い、人と人が交差し、繋がっていく。海南市の面白いことや、魅力ある人を知りたいのであれば、ぜひ一度、KAMOGO を訪れてほしい。

## 農業を支え、地域を元気に

「人と人のつながり」が大きな力になると言う大谷さん。KAMOGO や援農者の運営で、特に冬季は忙しくなるが、いつも笑顔を絶やすことなく活動を続けている。地元のために一步一步前に進もうと活動続ける姿には、魅力を感じずにはられない。



地域内外の人達の交流の場「KAMOGO」

移住のすすめ  
Case 2  
武田伸之さん



## 移住を考える人へ

移住を考えている人に対し、武田さんは「まちを見て人々の話を聞いてほしい。そこには感じられる何かがある。その何かに魅せられた人達がつながり、新しい鼓動が生まれる。まずは、一歩、このまちに足を踏み入れてほしい。そうすれば、私達も力になれることがたくさんある。」と語ってくれた。

移住には様々なきっかけがある。何を大切にするかは人それぞれだが、「人に魅せられたから」「まちに魅せられたから」そういう移住もいだろう。



Photo Ituko Simizu

## まちからにじみ出る 「黒江」の魅力

海南市の黒江で生まれ育った武田伸之さんは、必ず黒江に戻ると心に誓い、大阪、関東で働きながら工芸の修行を積み、2013年に地元に戻って自身の工房である「HOUSEHOLD INDUSTRY」を始めた。ハンマーワークのみで作る作品は、多くの人々を魅了しており、取り入れているお店も多い。

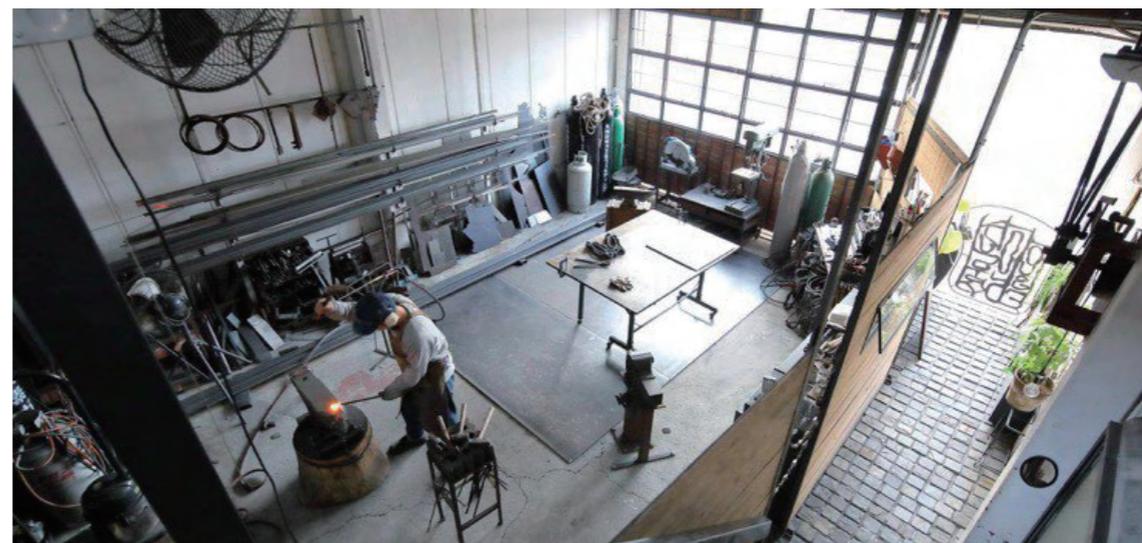
黒江は「紀州漆器」のまちであり、その歴史は数百年にもなる。武田さんは、黒江のまちの至る所に滲み出る魅力があり、様々なインスピレーションを与えてくれると言う。

「黒江のまちを散歩することは、自分の血管の中をめぐるようなもの」と表現するほど、彼は黒江の魅力の中で生きている。

## アーティスティックなまちに

黒江の魅力に引き寄せられているのは、武田さんだけではない。黒江に魅せられたアーティスティックな若者が根付き始めている。彼らがつながりあい、その輪が広がることで生まれる共鳴。それに引き寄せられて、まちに来る人がいれば良い。武田さんはそう考え、つながりの輪を広げるため、アーティストを交えて人々が語り合う場を作ろうと動き始めた。

作品づくりの展望を武田さんに尋ねると、「これまでの十年間は、黒江で基礎づくりをやってきた。これからは、県外や国外に作品を出し、アジア、ヨーロッパにも挑戦していきたい。」「黒江のまちでこれだけのことができる。黒江というまちが私に伝えてくれるものがあることを証明したい。」と信念を持って世界を見つめ、鉄と向き合っている。



武田さんの工房「HOUSEHOLD INDUSTRY」。魅力的な鉄の世界は、ここで生み出されている。



移住のすすめ  
Case 3  
黒岩正和さん

## チロルや瀬戸内海のような風景を楽しむことができる

黒岩正和さんは、京都市在住であったが、海南市の地域おこし協力隊員に応募したことをきっかけに海南市に移住した。協力隊員として海南市に移住する前は、プロのカメラマンとして世界中を駆け巡り、民族や風習、文化をはじめとした様々な写真作品を作り上げてきた。

現在は海南市に住みながら、カメラマンとしてのスキルを活かし、海南市のPRや観光の活性化に取り組んでいる。

海南市のいい所として海と山が近く自然が豊かな点を挙げてくれた黒岩さん。世界中を飛び回り、フォトグラファーらしく「チロル※のような景色と、瀬戸内海のような風景を楽しめる。」と表現してくれた。

※チロル…オーストリアとイタリアにまたがるアルプス山脈東部の地域



移住のすすめ  
Case 4  
瀬戸山江理さん

## 人とのつながりが移住のきっかけ

瀬戸山江理さんは、和歌山市に住んでいたが、地域おこし協力隊員として移住し、「漆器のまち黒江」のPR活動を続けている。

彼女が、海南市に移住するに至ったのは、地域を盛り上げようと取り組む人たちとの出会いがあったからだと言ってくれた。人との出会いがきっかけとなり、海南市内の様々な取り組みに関わるようになったことが、現在の自分に繋がっていると言う。

海南市については「良くも悪くも、人の距離が近いことが特徴で、同じ感覚を持っている人同士はすぐに意気投合するし、逆に言えば、とっつきにくいところも否めない。」と、移住者ならではの視点で話してくれた。

## 私より子ども達が喜んでます

今では、子ども達と一緒に海に行ったり、山へ虫取りに出かけたりと、家族との時間が増えたと喜んでくれている。

また、関西国際空港に近いことなど、交通アクセスが便利な点も海南市の良いところだと言う。国内にとどまらず、海外の様々な場所に出かけるカメラマンにとっては、交通の利便性も大切なことであり、それも含めて海南市は過ごしやすい場所だと感じている様子だ。

最後に、海南市に移住を考えている方々へ向け「海南市は、一度住んでみると、利便性も高く、自然も多いので、住みやすいと思います。私自身、子どもが2人いますが、私より子どもたちの方が、移住したことを喜んで、楽しんでいます。」とメッセージをくれた。



まちを紹介しながら、写真の撮り方を教える黒岩さん。移住者が地元民にまちの魅力を伝える事で、地元の魅力の再発見につなげる。

## もっともっと魅力的なまちに

彼女によると、海南市は、県庁所在地である和歌山市の隣で、大阪にも近く、便利な立地でありながら、黒江に来てみると京都に来たような、昔にタイムスリップしたような不思議な感覚を覚えるという。同時に、あと一押しで、このまちはもっともっと魅力的になるのではないかと感じたという。

その思いを実現するための一歩として、彼女は現在、カフェ「黒江ぬりもの館」の運営に携わっている。ぬりもの館は、漆器職人の工房であった古民家をリフォームしたもので、漆器のまち黒江の魅力を感じることでできる貴重な存在となっている。

また、瀬戸山さんは海南市に人とのつながりが生まれる魅力的な場所を増やしたい、そして先輩移住者である自分自身が、訪れる人と地元をつなぐ橋渡し役になればとの思いで、日々の活動に取り組んでいる。



黒江の街並み



移住のすすめ  
Case 5  
高木加奈子さん

【職業】 酒造業

【好きなこと】 ビール、日本酒、醸造所の見学

### 自然豊かで、住むには贅沢！

東京出身で、現在海南市の酒造メーカーで働く高木加奈子さん。大学時代に、ある酒屋さんから「和歌山の酒造が募集をしている」と聞いたことが、海南市へ就職のきっかけとなったそう。

海南市について高木さんは、自然が豊かで、都会の雑踏がなく、住むには贅沢なところだと評してくれた。

酒造家として海南市の企業に就職し、見知らぬ土地での暮らしに不安もあっただろうが、「今後とも海南市でおいしいお酒を醸造していきたい。」と力強い言葉をくれた。



移住のすすめ  
Case 7  
樋口夫妻

【職業】 福祉関係

【好きなこと】 釣り、土いじり

### 移住の決め手は、 地域の人のあたたかさ！

少しゆったりした生活、また大好きな釣りを楽しめる生活がしたいということで、大阪府から、海に面する下津町大崎地区に移住された樋口夫妻。

静かな環境と、移住者に対する地域の人たちの温かさを最初に感じたことが、大崎地区へ移住を決めた理由とのことであり、移住後は、自治会の仕事もこなされ、すっかり地域に溶け込んでいる。

また、移住を考えている方々には、「ここは人々が温かく、移住者にとって良い場所であり、移住者が増えてくれれば」と話してくれた。

### 面白いことが、すぐ近くにある！

「なんといっても楽しいまち！」海南市の印象について満面の笑顔で答えてくれた。

滋賀県から海南市に移住した池田和子さんは、空き家バンクで購入した自宅のことを「趣味の基地」と呼ぶほど多趣味で、家庭菜園、DIYなど、海南ライフを満喫している。

「海南は近くに楽しいことが詰まっている。」と話す池田さん。自転車で、マイカーで、電車で、市内外を忙しく飛び回り、農作業もする。「楽しく日々を送りたい方にはもってこいなまち。」池田さんは、そう表現してくれた。



移住のすすめ  
Case 6  
池田和子さん

【職業】 薬剤師

【好きなこと】 家庭菜園、木工、DIY、手芸

### 集まれ、後継者！

山家優一さんは、漆器に新しいサービスを展開する株式会社やまがの代表者であり、父が営む漆器製造メーカー「山家漆器店」の営業部長でもある。

以前は海外で仕事をしており、海南市に戻ってくる気持ちはなかったという。しかし、インターネットを活用することで活路を見出し、海南の土地で事業を引き継ぐことを決めた。

「後継者のことで悩んでいる方や事業を承継しようか悩んでいる方の話を聞き、アドバイスすることで海南市の伝統産業・地場産業の存続と、若い方が海南に戻ってくることに関心したい。」と熱い思いを語ってくれた。



移住のすすめ  
Case 8  
山家優一さん

【職業】 漆器職人

【好きなこと】 旅行、サッカー、フットサル